

人口最少県 57.8万人

鳥取県の挑戦

# 合計特殊出生率の回復

鳥取県の合計特殊出生率が前年度比で0.05ポイント上昇

	平成20年	...	平成24年	平成25年
鳥取県	1.43 (全国17位)		1.57 (全国9位)	<b>1.62</b> (全国7位) 対前年 +0.05
全国	1.37		1.41	1.43 対前年 +0.02

※合計特殊出生率の上昇幅の高い県・・・ ①福島 (0.12) ②鳥取・宮崎 (0.05)

## 上昇の理由



### 「子育て王国鳥取県」の建国

鳥取県では、平成22年に「子育て王国鳥取県」の建国を宣言し、地域みんなで子育て支援に取り組む機運を盛り上げるとともに、特に経済的な支援策の充実に取り組んできた

県民アンケートで7割が認知 (平成25年度)

### 様々な子育て支援策

- ・ 小児特別医療費支援の拡充
- ・ 多子世帯保育料子育て支援
- ・ 病児・病後児保育の充実
- ・ 不妊治療費の助成
- ・ とっとり子育て応援パスポート

など

# 合計特殊出生率回復につながる施策

## 小児特別医療費助成の拡充

県内全市町村が実施

県と市町村で被保険者負担分を助成する「小児特別医療費制度」について、平成23年4月から対象を拡充

平成23年3月以前	平成23年4月以降
入院・通院 就学前まで	入院・通院 <b>中学校卒業まで</b>

利用実績も増加の一途

	延件数	実績額
H22	519,898件	383,674千円
H23	875,507件	684,514千円
H24	983,990件	769,563千円

## 多子世帯の保育料軽減

平成21年度から、国の軽減制度と県の軽減制度を併用し、多子世帯の保育料を軽減

平成21年度以降、第3子以降の出生数は増加の傾向

出生数	H21	H22	H23	H24	H25
総数	4,876	4,790	4,931	4,771	4,759
<b>第3子以降</b>	<b>922</b> 18.9%	<b>928</b> 19.4%	<b>968</b> 19.6%	<b>990</b> 20.8%	<b>967</b> 20.3%

【県制度】同時在園に関係なく第3子以降1/3に軽減（国制度で第3子が無償又は第1子・2子が対象外となる場合、第1子・2子に振替）

小学生以上  
(対象外)

保育所  
在園児童

	国制度	県制度①	県制度②	県制度③
			第1子	第1子 第2子
	第1子 全額 自己負担	第1子 1/3 自己負担	第2子 1/3 自己負担	第3子 1/3 自己負担
		国制度では全額自己負担		
	第2子 1/2 自己負担	第2子 1/2 自己負担	第3子 1/2 自己負担	
	第3子 無償	第3子 無償		

# 合計特殊出生率回復につながる施策

## 病児・病後児保育の充実

病児・病後児保育について、国の補助要件の対象外となる小規模施設（年間延べ利用児童数10人未満）等に対し、市町村と協調して支援を実施

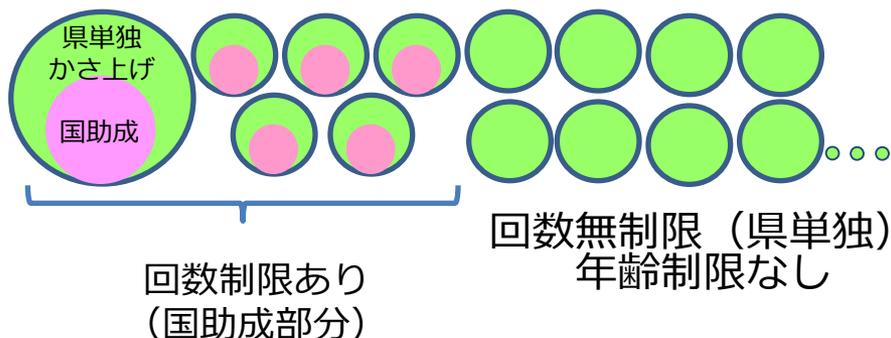
県内出産者へのアンケート調査（平成24年度）

出産に当たって考慮した事項・・・「病時・病後児保育が近くにある」 150人／943人

## 不妊治療費の助成

不妊治療費助成制度について、平成18年度から制度を拡充し、県単独での上乗せを実施

平成25年7月からは県単独補助の回数制限を廃止



助成申請件数は増加の一途

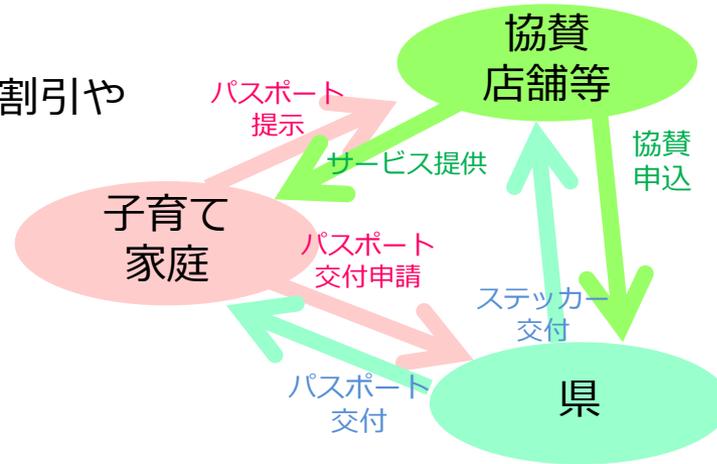
区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25
特定不妊治療	514	636	687	816	990	1,083
人工授精 (県単独)	(H23年度から)			158	147	156

# 合計特殊出生率回復につながる施策

## とつとり子育て応援パスポート

県内の協賛店の協力を受け、妊娠中から子どもが18歳になるまで利用できるパスポート事業を平成19年から実施。

子育て家庭が協賛店舗で提示すると、割引や特典などのサービスが受けられる



他県と連携し、近隣府県でも利用可能



島根県



広島県



関西圏  
(三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、和歌山、徳島)

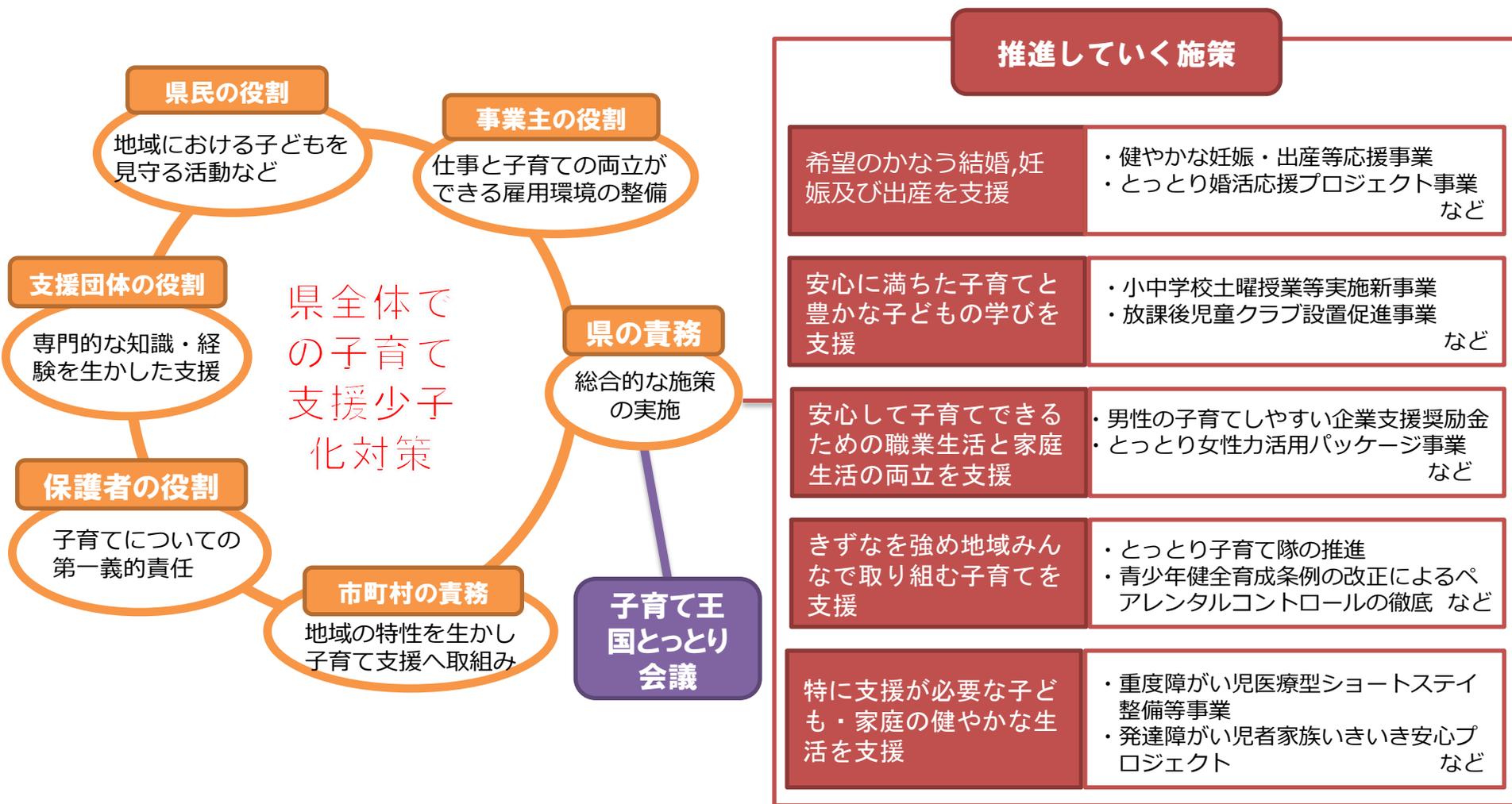
登録者数・経産店舗数ともに年々増加、子育て世帯に定着

区分	H21	H22	H23	H24	H25
登録者数	11,200	18,500	24,300	28,000	33,800
協賛店舗数	990	1,580	1,880	2,260	2,380

# 条例制定により子育て王国の取組みを加速化

平成22年度に子育て王国の建国を宣言

平成26年3月に、行政、事業主、県民等が一体となり、子育て支援の環境を総合的・計画的に発展させていく「子育て王国とっとり条例」を制定し、取組みをさらに加速化

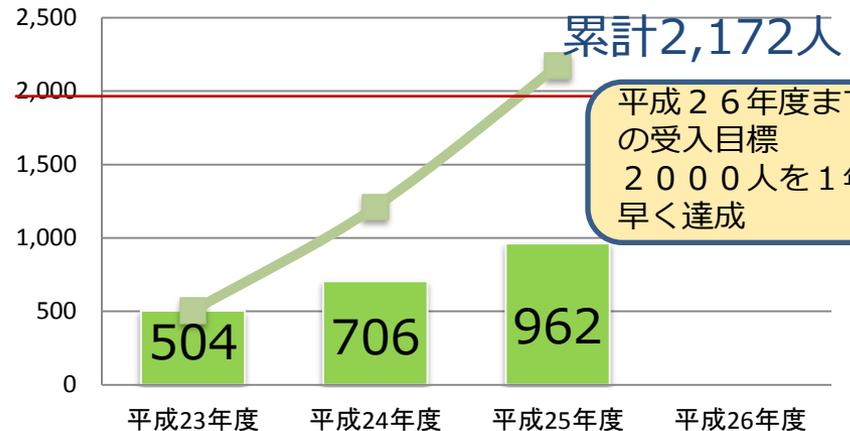


# 移住2000人の達成

平成23～26年度の4年間で、移住者2,000人を達成する目標を掲げ、移住定住施策（IJUターン）の取組みを推進 **目標より1年早く、平成25年度に移住者2,000人を達成**

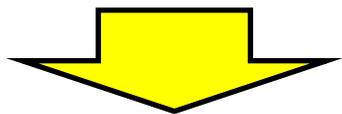
## 【主な特徴（平成25年度）】

- 20代（42.7%）～30代（22.5%）の移住が多い。
- 20～40代は就職が中心。結婚・子育ても目立つ。
- 近畿・中国・関東からの移住が多い。  
…東日本大震災を契機とした安全志向の高まり等と推察
- 豊かな自然環境の中での子育てや、地方での新たな仕事を求めて移住される方もある。



## 達成の要因

早くから相談・受入体制を充実している市町村ほど、着実な移住者の獲得に結びついている傾向



東日本大震災以降の安全志向や県内企業の求人の増加に加え、**相談体制や受入体制の充実などの移住定住施策の充実**を図ってきていることが奏功しているものと思われる

## 様々な移住支援策

- 東京相談窓口・関西相談窓口の設置、専任相談員の配置
- 相談会の実施
- 「森のようちえん」の支援
- 中山間地域市町村保育料無料化への支援
- とっとり暮らし体験ツアー、お試し住宅の整備等、とっとり暮らしの体験機会の提供

など

# 移住定住の相談体制の充実

## 相談体制の充実

## 移住専任相談員の設置が進み、 相談体制が充実

**移住者へのアンケート調査・・・回答者の86%相談窓口を利用  
相談窓口での迅速かつ丁寧な対応が移住者獲得の大きな要因に**

### <移住者・市町村の声>

- 町の支援体制が整っており、役場の方もとても丁寧だった。送付された資料を見た時点で移住がほぼ決まった。（移住者）
- 若者就職奨励金など、移住施策の強化により移住者が増加した。丁寧かつ迅速な相談体制が移住の決め手となっている。（市町村担当者）
- 移住相談員の配置、住宅支援、移住体験ツアーを実施により、その効果がみられるようになった。（市町村担当者）

### 【取組内容】

- 東京相談窓口・関西相談窓口を設置、「鳥取県田舎暮らしコーディネーター」を配置して相談に対応
- 市町村との合同相談会、とっとり暮らしセミナー、平日夜間の相談会 などの相談会の実施
- アンテナショップ等に出張相談窓口を設置



# 移住・定住につながる子育て支援

## 「森のようちえん」への支援

“森のようちえん”とは、自然体験活動を基本とする保育、幼少期教育の総称で、国内でも広がりを見せている。（全国ネットワークに126団体参加）

鳥取県では、現在5つの森のようちえんが活動中であり、**県外や海外から移住して入園される方が増加している。**

### 【移住の事例】

- ・ 評判が評判を呼び東京・大阪・広島などから子育てのため移住してきた方もいる。
- ・ 「まるたんぼう（智頭町）」を追ったドキュメンタリー番組の海外放送をきっかけに、海外からの問合せが増え、シンガポールからオランダ人と日本人夫婦が智頭町に移住したほか、オーストラリアの一家が来春からの移住をすでに決めている。

※野外活動を基本としており、特定の園舎を持たないなど、実施形態が既存の保育所等の認可基準になじまないため、安定した運営のための支援・制度改正などが必要

鳥取の自然を活かした特徴的保育として県も支援

- モデル事業として運営費を助成（平成26年度から）
- 県独自の認証制度を官民協働で検討中（平成27年度創設予定）

### 県内の森のようちえん

名称	開設	利用者 (移住者)	所在地
森のようちえん まるたんぼう	H21	27(4)	智頭町
空のしたひろば すぎぼっくり	H24	10(8)	智頭町
hughug大山森のようちえん	H24	12	伯耆町
いきいき成器保育園	H25	9	鳥取市
鳥取・森のようちえん風りんりん	H26	8	鳥取市



色々な年齢の子と一緒に活動



自然のなかで、音楽活動

# 移住・定住につながる子育て支援

## 中山間地域市町村保育料無償化への支援

少子化、人口減少の危機に直面している中山間地域において、**保育料の軽減等による子育て支援により若者の移住定住に取り組む市町村を応援**



平成26年度は6町が実施

若桜町、三朝町、大山町、日野町、日南町、江府町

〔町別無償化・軽減化パターン〕

単位：千円

### 【事業の概要】

- 予算額 (H26) 43,300千円
- 中山間地域の市町村が保育料を軽減する額の1/2を補助

7月20日に東京都内で開催した市町村合同移住相談会での来場者の声

- **保育料を無償化した若桜町に興味あり。**お試し住宅を夏休みに利用する予定。(40代夫婦と子2名)

住民との意見交換会での声

- 保育料無償化は3人目を考える要因となり、歓迎する。
- 子育ての他にお金をまわすことができ、非常にありがたい。

区分	町	保育料の無償化・軽減の内容			所用額 (県補助)
		第1子	第2子	第3子以降	
第3子以降の軽減	大山町			0・1歳児 1/3 2歳児以上 無償	20,872 (10,436)
第2子から軽減	三朝町		1/2	無償	16,180 (8,090)
第1子から軽減	日南町	1/2	1/3	無償	13,467 (6,733)
	日野町	2/3	1/3	無償	4,700 (2,350)
第1子から無償化	江府町	無償 (第1・2子給食費1/2)			10,000 (5,000)
	若桜町	無償			9,000 (4,500)
合計					74,219 (37,109)

# 移住定住の取組み

## 情報発信の強化

### 【主な取組み】

- とっとり暮らしPRイベントの開催
- 東京アンテナショップでの観光・移住コーナーの設置
- 若者向け雑誌とタイアップによるセミナーの実施
- とっとり暮らし体験ツアー、お試し住宅の整備等、とっとり暮らしの体験機会の提供 など

とっとりに目が向いていない若い世代にアプローチ、具体的な情報・体験機会の提供により移住へと誘う

7月20日に東京都内で市町村合同移住相談会を開催

10市町の相談ブースを設置、79組が来場 子育て世代が多く来場

(来場者の主な声)

- Iターンし森のようちえんに子どもを通わせたい。すぐにも移住したい。(30代夫婦と子1名)
- 保育料を無償化した若桜町に興味あり。お試し住宅を夏休みに利用する予定。(40代夫婦と子2名)
- 陶芸の仕事をしながら地方で町に相談し、後継者を探している窯を紹介してもらえたこととなった。(30代男性)



## 受入体制の充実

お試し住宅の整備など受入体制が充実

### お試し住宅の整備

移住希望者がとっとり暮らしを体験するため短期間居住することができる住宅を整備

平成22年度7戸

→平成26年度20戸(予定)



1日1200円!  
鳥取市お試し住宅

### 居住支援制度の充実

市町村で、移住者に対する住宅の購入・建築・修繕等を支援する制度を整備

平成22年度4市町

→平成26年度13市町

鳥取県移住定住推進交付金により市町村を支援